



# Tokyo

## Global Financial City

14<sup>th</sup> April 2017

Sir Roger Gifford  
City of London



# 本プレゼンテーションの内容

ロンドンから見た東京

金融市場における戦略

東京におけるプロモーション活動

シティ・オブ・ロンドンの経験



# ロンドンから見た東京

- 魅惑的かつ魅力的で、評価が高く、安全、信頼でき、巨額な貯蓄を有する市場
- 一方、他の都市と比べ、難解で、官僚的で、複雑で、コストや時間がかかるイメージ
  - 東京もロンドンも、法の支配が適用され、司法は独立している
  - これまで以上に、地域で果たせる役割は何か（東南アジアにおける邦銀など）
  - 世界に目を向けると、国や都市間の連携は強まっており、その境界線は薄れている
- ビジネスチャンスはどこにあるのか？

# 金融市場における戦略

- 得意とする分野のプロモーション活動に注力する。
- 世界のつながりは、資本の流れによりますます密接な関係と  
なっている。
- サービスごとの「クラスター」化を推進
- 地域的な繋がりや専門性
- スキルと人的資源
- コンセプトとして、貸付や資産運用より「イノベーションと創造」



# 東京におけるプロモーション活動

- オリンピックの開催が決まっている
- The CityUKをご参考に — 業界団体を会員とし、政府や行政機関に働きかけを行う独立した推進母体で、シティオブロンドンと連携して活動
- 魅力を積極的・精力的にアピールする
- ソフトのカー・グルメ、ファッション、英語など



# シティ・オブ・ロンドンにおける実績

- シティ・オブ・ロンドンは、幅広くプロモーションを実施する団体
- ロードメイヤーは、100日かけ、世界30か国を歴訪し、シティの「売り込み」活動を行う
- 国内への訪問、ソフトの力、資金力(££)を活用
- 多様な人材 – ロンドン市民の50%以上が「白人の英国人」以外から成る
- 外国人による英国内の不動産保有率が高く、今後も続く状況にある
- ザシティによるプロモーション活動の詳細
  - リーガルサービス – 250社の外資系法律事務所
  - 人民元(RMB)の国際化 – ロンドンが拠点となっている
  - イスラム金融 – 20のシャリーア適格金融者
  - グリーンファイナンス – 現在、推進中
  - FinTech – 現在、推進中
  - ? 資産運用
- 国内のプレーヤー – 100の90%を目指すより200の70%を目指す方が良い

## (参考) FinTechと資産運用

ロンドンには、国際的な資産運用センターで、「ロボット投資」技術による自動化に先進的に取り組んでいる。

ロボット投資は、パッシブとアクティブのいずれについても、資産配分をマネージャーの判断から、超大手資産運用者向けに開発されたアルゴリズムに委ねることができる。日本でも同様。

ロボット投資は、資産運用会社の営業及び販売レベルで活用されており、①低い手数料②人為的ミスや偏見の回避③投資家により多くの利益を返せる、と3つの利点がある。

BlackrockやUBSなど大手企業の間では、「arms race(設備・装備の競争)」が起きており、優秀で投資家本位のロボット投資モデルを開発している。

東京とロンドンは、ロボット投資の開発推進のため連携し、資産運用における世界の技術開発の推進力になることができる。